



ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会

〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏

tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009

URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp

発行 月報編集委員会 発行日 2018年11月4日 No. 54



礼拝献花より

キリスト・イエスに結ばれてい
れば、割礼の有無は問題ではなく、
愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

ガラテヤの信徒への手紙 5章6節



シリーズ説教

『救いの衝撃』

牧師 佐藤和宏

ヨハネ2章13節〜22節

「ある人にとってキリストが何ものかであるならば、その人にとってほかのすべては無であるが、ある人にとってキリストが無であるならば、その人にとっては絶えずほかのすべてのものが大なるものである」。

1516年10月31日、ちょうど宗教改革の一年前にあたるこの日、ルターはその日の説教をこのように語り始めたと言われています。すなわち「ある人にとってキリストがわずかでもあるならば、たとえキリストは救い主であると思わなくても、キリストってどんな方だろうかというようにわずかでもあるならば、その人にとってほかのすべては無意味となる」と言っているのです。ルターは、「キリストにすべてを委ねて生きる、そのような生き方に民衆を導くことを説教者として、魂への配慮をする牧会者として願っていた」と言いますから、「ある人にとってキリス

トが何ものかである」ようになることを願って、すなわち「その人にとってキリストがわずかでもかすめる」ことを願って、御言葉を語ったにちがいありません。

ルターは、この日、「ある人にとってキリストが何ものかであるならば、その人にとってほかのすべては無である」ということを、ルターはザアカイの経験を通して語っています。ザアカイは当初、「有名なイエスはどんな人だろう。見てみたいものだ」と考え、実行に移しました。その時の彼はイエスを見るだけで、後には以前と変わらずに徴税人の頭として、不正を働いて金儲けをするつもりでした。ザアカイのうちにキリストは「どんな人だろう」という程度の「何ものか」でしかなかったのです。しかし、思いがけずキリストのほうからザアカイに向けて働きかけて、すなわち「あなたの家に泊まりたい」と声をかけ、彼の家で食事をし、語り合い、彼の友となつて、ザアカイのうちに「何ものか」でしかなかったはずなのに、キリストの方からぐんぐんと大きくなって、ザアカイをまったく新しいザアカイに

してしましましたのです。そして、ザアカイは「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」と、「ほかのすべては無」となったのです。

徳善義和先生は、イエスが「今日、救いがこの家を訪れた」と言われていることについて、次のように触れています。「後にルターは、この箇所をドイツ語に翻訳しているのですが、興味深い単語を使っているのです。救いがちょうど車のようになつて、ザアカイの家に向かって突進して来て、衝突するわけです。ザアカイの家は木つ端微塵です。そして木つ端微塵になった廃墟の中から新しいザアカイが生まれてくるのです。救いとほまさにそうなのです。」(「マルチン・ルター その生涯と信仰」)

ルターは激しい、相手を圧倒する動きに満ちた言葉で、「救い」について言い表しているのです。それはちょうど、主イエスが神殿の境内で、驚くほどの激しい姿をみせているのに似ているのではないのでしょうか。イエスの激しい言動は、私たちすべての者に向かつて「突進してきて」、自

分たちの都合で物事を判断することのある私たちに衝突し、私たちの思いを木つ端微塵にするのです。イエスの語られる御言葉は、そのような力として古い私たちを打ち壊し、新しい私たちを生まれさせるのです。

ルターは、今日ご紹介した説教の冒頭で2番目に「ある人にとってキリストが無であるならば、その人にとっては絶えずほかのすべてのものが大なるものである」と言いましたが、私はそうではないと思うのです。天地創造のはじめに、神は言葉によって無から有を創造されたのですから、たとえ「キリストが無である」と人が思っていたとしても、キリストの方からぐんぐんと大きくなって衝突し、その人を新しくすることはできるのです。ですから私たちの宣教も、結果が目に見えないように思われても、決してそのようなことはなく、私たちの小さな働き、祈りを通して、キリストの救いは人々へと絶えず働きかけるのです。私たちは「キリストが何ものかであれば、その人にとってほかのすべては無」となるほどの新しい命に生き始めることができるのです。(宗教改革主日)

一日神学校参加者の声

■シヨップの楽しみ

今年も一日神学校に参加でき、「藤が丘カード」のシヨップを開くことができ、感謝の一日でした。シヨップは午前の講義が終わったあとのお昼休みの1時間半です。設営からずっと担当してくださったお仕事の面々に加えて、藤が丘の参加者の皆さんが時間を見つけて手伝いに来てくださったたり、お顔を出してくださったり。お客様も絶えることがなく、忙しくも賑やか



■一日神学校にて、藤が丘シヨップ。

に楽しくカードを売ることができました。

例年「クリスマスカード」が中心ですが、今年は「多目的カード」も100枚以上持って行ったところ、ほとんど全部売れてしまうという嬉しい状況。クリスマスカードと合わせて312枚、売り上げは78,050円でした。

この日のために、女性会のお仕事会で(年明けの1月から!)皆でせっせと作った「手作りカードたち」が、一日神学校に集った方々の手に渡り喜んでいただいていたことに嬉しいことでした。「藤が丘カード」の売り上げは、毎年、女性会の働きとして年末に集計し、神学校はじめ、災害被災地支援、「共に生きる」などの活動や、「喜望の家」などの施設に献金・寄付させていただいています。これは私たちの大きな喜びであり、何よりも、神さまが小さい力でも十分に用いてくださるという大きな「恵み」でもあると感謝しています。(〇山〇子)

■私は、一日神学校の頃病氣治療方法の最終決断を迫られています。その為、午前中の講義も身に

入らず、お昼にハンドベルの斎藤さんにお会いでき、帰宅しました。しかし、往復6時間かけて無駄ではありませんでした。学院キャンパス、開会礼拝、幾人かの会いできた方々、病室ベットの書いています。もつと消灯です。(〇田基)

■こども神学校の体験

一日神学校では毎年、幼・小学生を対象に「こども神学校」を開催しています。学生はプログラムを通して、参加する子供たちとみ言葉を分かち合っています。

今年のコども神学校のテーマは「イエス様といっしょ」でした。一日神学校のテーマ「あなたと共に」になぞらえて、1年生の学生がテーマを考えました。そして40人ほどの学生で、テーマに沿ってプログラムを考えました。

私が担当した幼稚科では、歌を通してみ言葉を分かち合いました。こどもさんびかの「ことりたちは」を、手話を取り入れて歌いました。しかし、わかりやすく子供たちにみ言葉を伝えることは、簡単ではありません。集まった学生は、学年も性別も違い、神様をよく知らない人もいますし、教派の違いもあります。私たちは何ヶ月も前から準備をし、何度も話し合いを重ねました。「わかりやすいみ言葉」とは、実はとても難しいものでした。しかしこれこそが、「イエス様といっしょ」ということだと思えます。私たちはイエス様のように奇跡は起こせませんが、「共に分かち合う事ができる」ということを確認し合いました。とても楽しい時間でした。今回、学生が同じ方向を向いて頑張れたのは、私たちの中心に神様が「一緒に」いて下さるからだと思います。私たちも子どもたちと一緒に学ぶことができたことも神学校でした。(〇谷〇葉)

■当日は、開会礼拝に出て、大串先生の「闇に輝く灯火のように」と題する旧約聖書の講義を拝聴して、お昼を食べて帰りました。

私は昨年まで教区の常議員を4年間していましたので、その間にお知り合いになった教区の先生や信徒さんにお会いできたのが良かったです。(〇田〇一郎)

■午後のサック先生の講義で、「祈り」を身に引き寄せ生活に取り込んで生きることを学びました。サック先生の

ジョギングのお祈りの話から学んだものです。

それ以来、少しずつ実行している毎日です。息を吸うときに「主よ」「天のお父さま」あるいは「イエス様」：と心の中で呼びかけ、息を吐くときに「〇〇してください」「〇〇になりますように」と祈ります。一日の終わりに

昨年12月より、礼拝ライブ中継を開始し、音声説教と共に用いられています。もちろん礼拝は、その場に共にいるということが大切なのですが、教会に行つたことがない方には、教会がどのようなところか知る機会



■礼拝ライブ中継は、このようにどこにいても、礼拝と一緒に守ることができます。

振り返ると、何度も何度も神さまと繋がっていたことを感じます。忙しくてバタバタしている私ですが、電車での移動中、車の運転中、階段の上り下り、台所で野菜を洗いながら、お風呂のなかや職場の廊下を歩くときなど、ほんの短い祈りですが、気づいたら呼吸に合わせて祈っています。(○野智○子)

として、様々な事情で礼拝に出ることができない方には、補完的な機会として、用いらればと願っています。以前もお願ひしたことですが、皆さんの中にはパソコンなど触れたこともないと言われる方もおられるかもしれません。しかし、皆さんの周囲にはパソコンやスマートフォンを使用している方も少なくないのではないでしょうか。どうぞ、藤が丘教会のホームページやフェイスブックをご覧ください。これに誰にでも出紹介してください。これは誰にでも出来る、新しい宣教の一つです。

今回、海外に居住する○田○郎さんより、ライブ中継にて礼拝を共にしているとのメールをいただきましたので、ご本人の了解を得て、ご紹介させていただきます。

■教会の動向



10月の教会は、3日に聖研、5日は洗礼後の学びがありました。7日(日) 礼拝では、こどもメッセージ、聖餐式がありました。また礼拝後、定例役員会が開かれました。

■インドネシアの○田です。

8月半ばから礼拝ライブへの参加は100%です！パンと葡萄酒だけは空間を隔てると媒介できないため、聖餐式だけが残念です。(気持ちで飲み込みました！)

電機メーカー勤めのわりにIT音痴で、フェイスブックにてこずり、毎週「ログイン」写真をアップしなさい「嫌です」というプロセスを何度も繰り返して、やっとライブに到達できます。きょうも40秒ほど遅れました。

インドネシアの被災にお祈りいただき背筋が震えました。明日早速社内の少数派であるクリスチャン達に伝えます。日本の皆様にも神様の恵みと平安がありますように。

10日はお仕事会がありました。14日(日) 礼拝後、CS教師会、バザー委員会、クリスマスコンサート委員会がありました。17日は聖研がありました。

21日(日) 礼拝後、伝道支援委員会、女性会がありました。15時から東教区の各墓地にて墓前礼拝がありました。26日、洗礼後の学びがありました。

28日(日)は、宗教改革主日礼拝で聖餐式がありました。礼拝後には、伊藤悟先生(青山学院大学教授)をお迎えしての講演会が開催されました。東教区伝道支援金を活用しての本年プログラム終了しました。委員の皆さんのお働きと皆さんのご参加、お祈りに感謝します。講演会終了後、バザーの準備をいたしました。

■今後の予定

11月25日(日) ホームカミングデー
イ 江口再起先生をお迎えします。

12月8日(土) 18時半 クリスマ

スコンサート ゴスペル・山路唯

12月23日(日) 10時半 クリスマ

ス礼拝

12月24日(月) 18時 イブ礼拝